

第1回辰野町部活動地域クラブ移行連絡協議会 議事録

日時：令和6年8月1日（木）

18：30～

場所：町民会館大会議室

1. 開会

2. あいさつ

宮澤教育長 本日はお集まりいただきありがとうございます。

7月は大変な猛暑の連続であった、8月はどんな陽気になるのかと心配もある。

従来から辰野中学校に配置されていた、中学校スポーツ活動検討委員会ですが教育員会が事務局を行っており、部活動の在り方等を検討してきたが、これを発展させて辰野町部活動地域クラブ活動移行連絡協議会、第1回目を開催する。町全体で取り組んでいくこととして組織させていただいた。

様々なメリットがあるけれど、一方では課題もいくつかある。十分に理解されていない部分もある。1回目なのでその部分を確認しながら進めさせてもらいたい。町内に一校の辰野中学校ですが、外部講師、外部指導者として部活動あるいは、その他通常の教育活動においても既にいくつか地域の方に支えてもらっている。生徒の課外活動、社会体育的な部分を見ても地域の方に指導いただき成果を上げている。辰野中学校でも一部の活動については地域に移行していると理解することができるのではないか。

教育委員会でも、全小学校で保護者説明会行ってきたが、地域移行について正しく理解されていると思っていない。様々な不安、疑問も保護者の方が持っている。連絡協議会を通して情報を発信していく役目を持つ。部活動が地域移行していても、これから地域の方が支えていただくことによって、中学生にとってより充実した活動が維持されていくようになることに期待を寄せている。

連絡協議会が進んでいく中で、より多くの方々に協議会に加わっていただくこともある。

中学生の活動を保障していくために、良い多くの理解者、協力者を得て取り組んでいかなければならない。

本日は、第1回目ということで、南信教育事務所生涯学習課スポーツ主事の大嶋信一郎先生にお越しいただいた。先生には、地域移行というものはどのようなものかという基本をお話いただく。よろしくお願いします。

3. 連絡協議会の設置について

資料説明

4. 委員の委嘱について

5. 自己紹介

6. 協議事項

(1) 学校部活動の地域連携、休日の地域クラブ活動への移行について

南信教育事務所 生涯学習課 スポーツ指導主事 大嶋 信一郎様
より資料を基に説明。

教育長 中学校の学習指導要領は文科省の学習指導要領に規定されていない。教育課程に準ずる扱いになっている。各学校に設置されていて先生が指導する、地域の方が外部指導者として支えられているのが現在の辰野中学校の部活動になる。

今後目指すものは、学校から部活動という教育活動を切り離すということ。簡単に言うと中学校の部活動ではないということ。地域の方にお願ひする。昔あった勝利至上主義という社会体育とは違う。そうではないように活動指針がある。

活動指針に沿って地域の方に支えてもらう活動をすることになる。ここが間違った認識になると大変なことになる。各小学校で説明してきたけれど、理解されてないと感じる。

(2) 辰野町の現状及び課題

事務局 昨年度まで辰野中学と地域移行についての懇談を数回持ち、中学校での保護者説明会は中学で行い、今後対象となる小学生の保護者には教育委員会ということで、4月から7月にかけて、各小学校をまわり保護者の方への説明会を開催した。

組合立の両小野小学校については、塩尻市の教育委員会と懇談し塩尻市で行っていただくことにした。

アンケート結果説明

辰野町部活動地域クラブ移行推進計画（案）について、現在作成中であり、今後協議会の皆様にも一緒にご検討いただきたい。

リュシオスポーツクラブ瀬戸委員 県の総合型の会議等で地域移行が議題に上がり事例の報告を受けたりしている。この協議会は、まずは地域移行に向けた具体的なことを決めていくのか、このまま部活動を続けていくのかどうするのか。

現状外部指導者が入っている部活があると聞いているが、そういう方が入っていない部活はどうするか。すべての生徒に公平に活動ができるものでないといけない。同じ条件で活動できるような体制が必要となる。それを含めた協議が必要となるのではないかな。

リュシオスポーツクラブでは総合型のクラブとして、地域移行に関してはできる範囲のことをできる範囲内で協力していきたいと思っている。

事務局 連絡協議会については、県の指針に基づき令和８年までに休日の部活動を移行するという事になっているので、事務局としてはまずは休日の移行をしていく。現状の中学の部活をそのままとは考えていない。

公平な部活動について、現状として、部活動に外部指導者が入っているところでは、部活動の組織が動いているところにお手伝いとして入るのはいいが、自分が主体となって指導していくことになると二の足を踏んでいる状態。

外部指導者がいるいないに関わらず、全ての種目にどのようにしていくか検討していく。スポーツ協会、リュシオスポーツクラブ、多種多様な種目を実際に活動したり指導したりしている団体が頼りなので、具体的に協議会で方向が定まったり、提案があった場合には、より具体的などこでご相談したいと考えている。

スポーツ協会池田委員 移行について、まだ見識が持てないところもある。協議会の目指すゴールを決めておいた方がよい。日程はいつまでにと出ているが、何をいつまでにやるのか。部活は今まで教育受けてきた中でしっかり理解できている。今まで主体、主催者が教育委員会だったこれが外れて、教育委員会ではない団体、そういう切り替えを明確にしないといけない。公平という事があったが、中学には帰宅部がある。部活動をやっていない子どもがいる。部活をやってない子どもがいる中でどうするかというところも大きな問題。公平という大きな風呂敷を広げてしまうと行き詰ってしまうと危惧している。まず、現状の認識を全員で確認するという事がひとつ。今まで運営委員会をやられているが、そこでどういう結果となったかを出してもらい、また最初から０ベースでやるとなると時間の無駄。運営委員会での検討結果の資料提供をお願いしたい。

事務局 運営委員会は、中学校の部活動の内容について検討する会、今回の連絡協議会とは性格が違っている。せっかくその母体があったので活用させていただいた。まさに０ベース。大嶋先生をお招きし、地域移行についての共通の理解をもっていただきたいということで第１回目の連絡協議会を開催させていただいた。

ゴールを決めるとあったが、まず第１目標は休日の部活動を令和８年までに移行すること。そのためにどのようなことをして指導者の確保をするか。推進計画を作成中ですので、今後充実させていきたい。

公平にということで帰宅部と呼ばれる子どもについて、国、県の指針の中でアンケートを行った際、部活動に入っていない生徒の中にも、例えば運動部について、競技として勝利したい優勝目指すということではなく、少し体を動かしたいといった潜在的な要求もある。どうやって受け皿にしていくか今回のテーマとなる。

教育長 現実問題、令和８年度に全ての部活動を移行することは大変厳しい。できるところから移行していく。完全に移行することは数年かかってしまうと感じている。指導者の問題は

大きな問題のひとつ。人口が 18,000 人の辰野町で中学生の活動を保証できることは考えられない。これについてはどうしていくか。辰野町、箕輪町、南箕輪村の北部 3 市町村の事務局レベルで協議をもっている。広域で地域移行を検討していかなければいけない。具体的な協議はできていないが、まずそれぞれの町村で協議し、難しい部分を町村で持ちよって進めていくことを考えている。3 町村の教育長もその方向で考えている。広げればいいというものではなく、生徒の移動手段の問題も出てくる。飯島町、中川村と一緒に進めている。広域で試行的に進めているところ。

教育委員会から切り離されると仰っていたが、教育委員会から切り離されることなく関わっていかなければいけない。学校からは切り離されるが、中学生の活動として教育委員会は関わっていくようになる。保険の問題もある。地域の指導者への謝金も発生する。

文科省は受益者負担と言っているが、義務教育なので、簡単に受益者負担でお願いしますとはいかない。経済格差もある。大きな課題。

美術会原委員 アンケート結果 美術会から回答が出ていないと思うが、今日の会にでてある程度地域移行について理解できたと思う。今の会員はほとんど趣味でやっている。今現在、部活動に関わっていて、5 人写生会で指導させてもらった。日曜の指導をなると、会員が高齢化しているので心配、指導資格についても課題となる。

写生会は楽しく参加させてもらっている。子どもたちの一緒に絵をみていると手を出さないようにと思っても一緒にやってしまう。

教育長 指導資格は関係なく、指針、ガイドラインを十分に理解にしてくれる方、これに沿って支援、指導してくれる方に外部指導者、地域の指導者として入っていただく。

なんでも手を挙げてくれた方に、ではお願いしますとはならない。

スポーツ協会池田委員 先ほど教育委員会からは外れないということを聞き、学校からは外れるということだが、学校教育というフレームがあるから、例えば地域教育という名前にして、地域で教育していくという考え方ができるのではないか。そのあたりはどうか。

教育長 まさに移行の目的。地域で支えていかなければいけない。ただ子どもの育成と考えると教育委員会は手を引くことができない。

スポーツ協会池田委員 学校教育から地域教育に名前を変えるのはどうか。

教育長 すべての種目がそうならばそういうことも考えていけばいいかと思う。

リュシオススポーツクラブ瀬戸委員 学校から地域移行に関して危惧していること等あればお伺いできれば、検討材料にもなるかと思うがどうか。

教育長 次の（３）でそちらも含めてお話してもらいたい。

（３）中学校における部活動の現状等について

辰野中中島校長 資料説明 17 の部活動がある。運動系の部活動 13、文科系 4

既に引退した３年生も含まれている。417 名中 313 人入部している。学年によって人数がデコボコである。

辰野中の生徒数も確実に減っていく。それにより教員数も減っていく。これから生徒も減り教員も減りこれだけの数の種目を維持していくことは大変難しい。部活動は職務としてやっている。学校から離れていくと考えると、地域移行が進んだ部に関しては顧問がいらなくなる。教員の中にはその競技が専門でその競技を指導したいという教員もいる。その教員が地域クラブの指導をしていくとなると、兼職兼業となる。例えば、辰野中の教員だけれど伊那市に住んでいるとなると伊那市の地域クラブで指導するということになる。地域移行した場合、中学生がどのように指導してもらっているか、その活動にどう取り組んでいるのか、まったく関心がないということではなく、健全に中学生が育ってほしいと思う。地域活動が始まると、教師もそれぞれの立場でそれぞれの活動に関わらせてもらうようになる。学校としても、すべては難しいとしても、ひとつの部でもふたつの部でも先行して進んでいけるように協力をしたい。

学校の教員としてではなく、別の形で関わらせてもらうと少しずつ歯車が進んでいくと思っている。

教育長 中学生の反応はどうか

辰野中梅澤先生 地域移行に関しては、３年生の担任をしているが、１年生の時の家庭訪問で部活はなくなってしまうのかという質問があった。中学校でも部活動の保護者代表者会で地域移行について説明させてもらった。現状を維持するならいいかという反応だった。部活に所属していたけれど、地域のクラブに途中から変えた生徒もいる。辰野中の部活動にはないバドミントンについては、リュシオススポーツクラブに入り活動している生徒もいて、既に地域のクラブチームに所属している生徒もいる。

教育長 とりあえずは休日の移行をと考えていますが、休日の部活動が地域に移行、でも平日は顧問の先生が指導してくれるとなると、休日の指導と、平日の指導が合わない生徒が大混乱

してしまう。混乱させないために、その辺の調整が難しい。連携、事前の調整をうまくやらなければいけない。

（４）質疑・応答

リュシオスポーツクラブ瀬戸委員 私どもの活動の中にもすぐにでも連携できそうなものがあると思うので、そういったものから試験的に進めていったいいものか、足並みを揃えないといけないのか。陸上を土曜日にやっている。中学でもやっているのを見かける。もし可能であれば、すぐにでも始めさせてもらえればと考えている。

教育長 ありがたい提案をいただいた。指針、ガイドラインを十分理解した上でそれに則って指導できるとことを確認できればと思う。リュシオと中学と事務局とで協議させていただいて、リュシオの活動でこういうことができるといった提案をだしていただきたい。他の団体も手をあげていただいたら協議をさせてもらいたい。

事務局 種目によっては複数の団体があるので協議は必要としたい。
実証事業で行うものについてまさにその内容となるため、今後また協議する機会も設けさせてもらいたい。

（５）今後について

- ・小学校５，６年生、保護者へのアンケートの実施
- ・コーディネーターの確保（各団体、学校間の連絡調整、協議会の設定）
アンケート結果について、推進計画に記載し、皆様からご意見いただき策定したいと考えている。
次回１１月頃を目安にご案内する。
- ・今後会議を進める中で、必要に応じて、関係する団体が協議会に参加いただくようになる可能性がある。

（６）その他

７．その他

８．閉会